

関係各位

平成 20 年 4 月 1 日
中越パルプ工業株式会社

配合率乖離による影響について

先般ご報告いたしました通り、古紙および非木材パルプの公称配合率と実際の配合率に乖離がありました。消費者並びにお取引先の皆様をはじめ関係各位に多大なご迷惑をお掛けし、また大変な混乱を招いたこと誠に申し訳ありません。改めて衷心よりお詫び申し上げます。

この度、この配合率乖離によって本来使用されるべきであった古紙等の数量と実績使用量との差異について推計いたしましたのでご報告申し上げます。

また、配合率乖離という事態を招いた責任の重大さを真摯に受け止め、今後弊社が地球規模での環境保全、温暖化防止、資源保護等の社会貢献に取り組んで参りますことをご報告申し上げますが、再度その取組みについてご報告申し上げます。

一日も早く皆様方の信頼を回復出来るよう誠心誠意推進して参りますので、なにとぞご理解賜りますようお願い申し上げます。

記

・ 古紙および非木材パルプの配合率乖離による使用不足量の推計

配合率乖離による使用不足量は、それぞれ次のように推計されます。

・ 古 紙	5 1 万トン (1990 年～2007 年の累計)
・ 非木材パルプ	
バガスパルプ	9 6 7 トン (1994 年 9 月～2006 年 3 月の累計)
ケナフパルプ	2 1 トン (2000 年 4 月～2008 年 1 月の累計)
竹パルプ	3 0 3 トン (2000 年 9 月～2008 年 1 月の累計)

・ 環境保全、温暖化防止、資源保護等の取組み

古紙利用量の増大

現在高岡工場能町の古紙パルプ生産能力には余力があることから、今後更なる古紙利用の増大を図るべく努力をして参ります。

また、地元企業から発生するオフィス古紙の更なる利用促進に努めます。

< 古紙利用量 > 単位：トン

2006 年	2012 年目標	
185,269	210,000	年間約 25 千トン増加

竹の有効利用による森林整備の推進

弊社は、鹿児島県において、地域が対策を模索していた竹の有効利用について、2000年より地域と一体となって取り組んで参りました。これからも、これまでのノウハウを生かし、より広域に働きかけ、地域の方々と一体となって「山の厄介者」である竹の有効利用を進めて参ります。

< 竹利用量 > 単位：トン

2006年	2012年目標	
5,795	10,000	年間約4千トン増加 パルプ1千トン相当

国内未利用材の積極調達

弊社は製材廃材、解体材、間伐材などの低質材を原料として使用しております。今後は山林関係者を積極的に支援、国内未利用資源の活用と国内森林の整備促進により地球温暖化防止に貢献してまいります。

< 国内材 樹材種別調達量 > 単位：BDT（絶乾トン）

	2006年	2012年目標	
製材廃材	151,844	150,000	
人工林及び			
未利用低質材	114,801	140,000	
計	266,645	290,000	年間約23千BDT増加 パルプ12千トン相当

植林事業の拡大推進と森林保全

国内外において毎年一定の保育事業費をかけ地元住民の雇用機会を創出しておりますが、更に国内では森林の蓄積量の増大を図るべく保育管理を充実させ、海外では更に植林面積を拡大すべく取組み中であります。

（現在東南アジアにおける案件を検討中。年間木材成長量はパルプ47千トン相当）

CO2排出量の削減による地球温暖化防止への貢献

< 木質ボイラーの設置 >

弊社は家屋解体材、剪定枝、解体切削木質チップ・ダスト類、プレーナー屑・オガ粉及びバークなどを原料とする木質ボイラーを設置し化石エネルギー（重油）の使用を低減することにより更なるCO2排出削減を図り、地球温暖化防止に貢献します。（平成21年6月完工予定、投資金額15.3億円）

重油使用量1,100kl/月減少 年間約27千t-CO2の削減効果を見込む

植林面積2,800ha相当 = パルプ年間13千トンに相当

その他

弊社は割り箸回収、オフィス古紙回収、植林ボランティアなどの地域環境活動を実施中ではありますが、更に対象を拡大すべく努力して参ります。

以上